
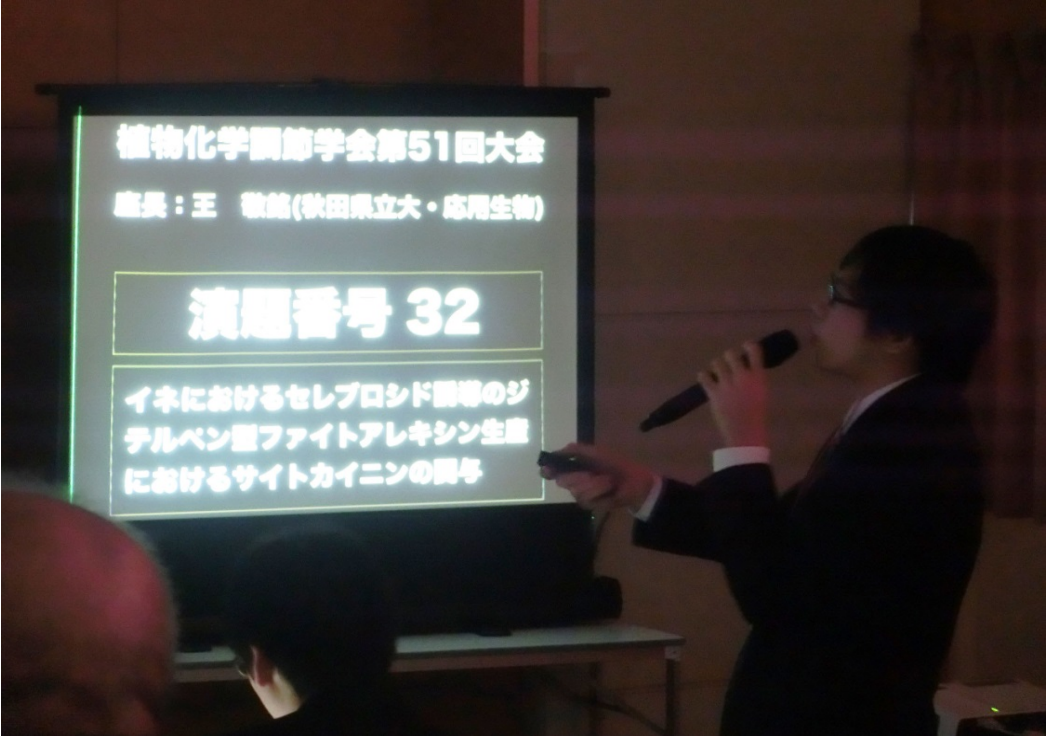


バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	植物化学調節学会 第51回大会（高知大学物部キャンパス）
演題名	イネにおけるセレブロシド誘導のジテルペン型ファイトアレキシン生産におけるサイトカイニンの関与
発表者	○※ <u>本江匡</u> 、 <u>宮本皓司</u> 、※ <u>石塚祐伸</u> 、 <u>古賀仁一郎</u> 、 <u>酒澤智子</u> 、 <u>湯本絵美</u> 、 <u>柴田恭美</u> 、 <u>朝比奈雅志</u> 、 <u>横田孝雄</u> 、 <u>飯野盛利</u> 、 <u>岡田憲典</u> 、 <u>山根久和</u> （植物化学研究室）
内容	<p>植物は病原菌由来の様々なエリシターを認識して、抗菌性二次代謝物質であるファイトアレキシンの生産などの病害抵抗性反応を示す。糸状菌などの膜脂質成分であるセレブロシドもエリシターとして機能し、イネに処理をするとファイトアレキシンの生産などの防御応答が誘導される。本研究では、植物ホルモンであるサイトカイニンがセレブロシド誘導的なファイトアレキシンの生産においてシグナル伝達因子として機能する可能性を追求し、セレブロシド処理によりサイトカイニンの内生量が増加することなどを示した。</p> <p>本研究はバイオサイエンス学科植物化学研究室の大学院生が修士論文研究の一環として行ったものである。なお、本発表は私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「植物オキシリピンの生理機能の解明とその応用」による支援を受けて行った。</p>
関連画像	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>写真：発表を行う本江匡君（植物化学研究室M2）</p>